

官版

語彙活語指掌

完

814

ゴ  
完











将居	将射	将見	将干
わむ	ひむ	みむ	ひむ
居	射	見	干
わ	ひ	み	ひ
居	射	見	干
わ	ひ	み	ひ

本書活語の下ふキキルキレなど、あつたるが即こもなり

第三 中二段活用

将恨	将戀	将落	将起
らみむ	こひむ	おちむ	おきむ
恨	戀	落	起
ら	こ	お	お
ら	こ	お	お
ら	こ	お	お
ら	こ	お	お

ミ	ヒ	チ	キ
ム	フ	ツ	ク
ム	フ	ツ	ク
ム	フ	ツ	ク

下	下	下	下
り	る	ら	れ
り	る	ら	れ
り	る	ら	れ

リ	ル	ル	ル
リ	ル	ル	ル
リ	ル	ル	ル
リ	ル	ル	ル

本書活語の下ふキククルなど、あつたるが即こもなり

第四 下二段活用

将添	将寝	将捨	将瘦	将受	将得
そむ	ねむ	てむ	せむ	うけむ	えむ
添	寝	捨	瘦	受	得
そ	ね	て	せ	う	え
そ	ね	て	せ	う	え
そ	ね	て	せ	う	え

へ	ネ	テ	セ	ケ	エ
フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
フル	ヌル	ツル	スル	クル	ウル
フル	ヌル	ツル	スル	クル	ウル



ほめ	響	ほ	響	ほ	響
き	消	き	消	き	消
か	枯	か	枯	か	枯
う	植	う	植	う	植

本書活語の下ふエウウルウレとあるはつけたるが即ちまをり

第五 加行變格活用

こ	来	こ	来	こ	来
き	来	き	来	き	来
く	来	く	来	く	来
くる	来	くる	来	くる	来
くれ	来	くれ	来	くれ	来

本書活語の下ふコキククルクレとあるはつけたるが即ちまをり

第六 佐行變格活用

せ	為	せ	為	せ	為
す	為	す	為	す	為
する	為	する	為	する	為
すれ	為	すれ	為	すれ	為

本書活語の下ふセシススレとあるはつけたるが即ちまをり

第七 奈行變格活用

い	往	い	往	い	往
ぬ	往	ぬ	往	ぬ	往
ぬる	往	ぬる	往	ぬる	往
ぬれ	往	ぬれ	往	ぬれ	往

本書活語の下ふナニヌヌレとあるはつけたるが即ちまをり

第八 良行四段一格活用

あ	有	あ	有	あ	有
り	有	り	有	り	有
ある	有	ある	有	ある	有
あれ	有	あれ	有	あれ	有

本書活語の下ふラリルレとあるはつけたるが即ちまをり

作用言のらち第三中二段活用第四下二段活用第六佐行變格活用等ふいふくと今と活用のたがひあり今といふは俗言の活用あり

エ	レ	エ	メ
ウ	ル	ユ	ム
ウル	ル	ユル	ムル
ウレ	ルレ	ユレ	ムレ

コ	キ	ク	クル	クレ
---	---	---	----	----

セ	シ	ス	スル	スレ
---	---	---	----	----

ナ	ニ	ヌ	ヌル	ヌレ
---	---	---	----	----

ラ	リ	ル	レ
---	---	---	---



中二段活用俗言格

おき	おち	こひ	うら	か	あり
將起	將落	將戀	將恨	將老	將下
おき	おち	こひ	うら	か	あり
起	落	戀	恨	老	下
おき	おち	こひ	うら	か	あり
起	落	戀	恨	老	下
おき	おち	こひ	うら	か	あり
起	落	戀	恨	老	下

キ	チ	ヒ	ニ	イ	リ
ク	ツ	フ	ム	ユ	ル
キル	チル	ヒル	ニル	イル	リル
キレ	チレ	ヒレ	ニレ	イレ	リレ

本書活語の下ノキクキルキレたゞとあるは即こゝをたゞり  
 圖面におおきおくをひら假字にてあつせりといふ人も今もかゝる言はるる  
 さるるをおくるを今おキルといふ俗言をまばらふ圖にてあつしむ

下二段活用俗言格

え	せ	す	や	う	う
將得	將瘦	將捨	將瘦	將受	將植
え	せ	す	や	う	う
得	瘦	捨	瘦	受	植
エ	セ	ス	ヤ	ウ	ウ
得	瘦	捨	瘦	受	植
エ	セ	ス	ヤ	ウ	ウ
得	瘦	捨	瘦	受	植

エ	レ	エ	メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
ウ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
エ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
エ	レ	エ	メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ







作用言總圖

白字をくわはつ用ぶる  
あるしをり

阿行 ア ギヤウ

加行 カ ギヤウ

佐行 サ ギヤウ

多行 タ ギヤウ

奈行 ナ ギヤウ

あ

い

う

え

を

か

き

く

け

こ

さ

し

そ

せ

そ

た

ち

つ

て

と

な

に

ぬ

ね

の

和行 ワ ギヤウ

良行 ラ ギヤウ

也行 ヤ ギヤウ

麻行 マ ギヤウ

波行 ハ ギヤウ

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

む

め

も

や

ゆ

よ

ゆ

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

わ

わ

わ

わ

良行四段格

四段

四段

四段

一段

中二段

中二段

中二段

中二段

一段

中二段

中二段

中二段

中二段

下二段

下二段

下二段

下二段

下二段

佐行變格

加行變格

奈行變格

一段

中二段

下二段

下二段



次ニ活語指掌圖をあらはして示すそのゆゑカ上カふあ  
 たる作用言總圖をおびえ得たらむのち形状言のあ  
 らまゝをもおびえむがためなり作用言と形状言とを  
 志シらうむハ活ハ用キさま一ニたりハいハふコとハいコたらズ  
 らむコその圖をよみおびえむハつキいコとハいコとハいコ  
 ことあり將然言とあるせるその朱線スチのハいコとハいコ  
 りあるあらむハとス詞をりまハいコとハいコ  
 むハの辭ヲをハいコとハいコ  
 よハとハいコとハいコ  
 こハとハいコとハいコ

れのづから將然言の意もとやくあらむとらんとおびえれ  
 ばぞうハ次ニ連用言といふ用言より用言へハつク詞ある  
 ことをあらハむハ用言へハつクすハさハふハおハやハとハその詞  
 こハとハいコとハいコ  
 いハの語意ハとハいコとハいコ  
 り體言ハはハつク詞をりハがハあハかハいハありハ  
 さハのハ花ハのハ車ハとハ體言ハいハひハつクるハをハいハふハその詞ハとハいハ  
 あるハたハまハよハみハつクけハあハちハいハくハあるハばハ已然言といふ  
 へハまハでハまハあハらハりハたハるハをハいハふハ詞ハありハ花ハとハいハのハ車ハをハ  
 こハとハいハふハ又ハ花ハとハいハのハ車ハをハおハびハたハるハのハ類ハをハりハ



花さの車をおせどりんバ希求言、使令言とちうて又其意異をもと  
こまをひとたびよをいふまへかへりてまうとふむをばくふいそす  
この

將然言、連用言、終止言、連體言、已然言、を詞の五階と名  
づかしてこの五階を四段活用よりての終止と連體とをか  
ねく圖す一段活用中二段活用下二段活用よりての將然  
と連用とをかねて圖す  
良行四段一格ハもとより連體と終止とをか係するなり  
畧圖せるああら  
とあるべし

活語指掌圖

將然言 連用言 終止言 連體言 已然言

朱線のふらふら己たまるるところハ兩階  
かひつらとあるべし

第三段	第二中	第一	第四
下老恨戀落起	居射見干似著	降住逢立押咲	
ひひひひひひ	ひひひひひひ	ひひひひひひ	ひひひひひひ
かきつりかきかき	かきつりかきかき	かきつりかきかき	かきつりかきかき
るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる
るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる
人人身事人兼人	人人身事人兼人	人人身事人兼人	人人身事人兼人
るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる	るるるるるる







上小擧たる指掌圖をよくよとあぢらひむつたゞ其俗意  
 を志らざるすまやかふ心得ごとくさるふよりそ十種活用おし  
 たるく俗意をあてて童蒙のたよりとす但し連體言の  
 結詞ケヒコト 結辭結と係辭係をむまぶとたの名なりされどそのめこと今こふ  
 さしすたるつとめて圖面の俗意をまを要とれりべし小なれ  
 るをの俗解せりさるいざ○花お○車なるといひつくる  
 類のいふべし今もかゝることなくしと別小俗解をくも  
 あらざるべどかりし  
 又こふ心づきこと終止言をかり小○と記して示す連體言の  
 重と記して示すを四段活用一段活用へ終止と連體とを  
 加録て圖せれば早く見らむむめたりとよく讀て味あるべし

段四行加

將然さかむ

オウ

連用さきにけふ

終止さく

オレマス

已然さけ

オレマス

ゆふゆふとわがぢな  
つごぢややぐく一兩日  
のうらふ花○サ○ウ

今日の花がさかむぢや  
ぢやうらふにやひマス

風はさむむら花ハ  
サキマス  
あつらういら花  
がわらむらう小  
サクワイ

きのしとを花ハサ  
タガマア

段四行佐

將然おきむ

オウ

連用おにやう

終止おむ

オレマス

已然おせ

オレマス

ての車はたいさうあひ  
車チヤロをもてなう  
くオウ

たりの車とみあつや  
やうくつとをオウ  
リマス

道がらういさ車ハ  
オレマス  
あひの車チヤガわれ  
オオオスワイ

よとそこの車ハ  
オレクガマア

段四行多

將然たむ

オウ

連用たと

終止た

オレマス

已然た

オレマス

かう風が吹てはものをも  
見て居らむとを  
サアくと命くオウ

何事の出来たやらん  
あの人ハ見物なまう  
けてた○とオウ

物をまて居られ  
ないでオウハオウ  
○見たくハハハハ  
からとまてのオウオ  
クツワイ

其場をうとありと  
せあらむとオウオ  
マア



段四行波

將然あはむ アのウ  
ゆるくささきたい  
ことあむるぢヤリウ  
明日茶屋くア  
ウ

連用あひみる  
とぞんあをぬ  
と思つたが今日  
らそくあひみ  
ス

終止あふ アヒマス  
アフワイ  
まこーあをさ  
いアヒマス  
かとい約束あ  
とこのやうア  
ワイ

已然あ アカマア  
けろそそそ  
アアカマア

段四行麻

將然まむ スウ  
このやうあさたぬい  
家あ永く居る氣  
あさアアアア  
スウ

連用まみまろ  
住まろだけ  
家あ住で居るけ  
なくまむま  
てマス

終止まむ スミマス  
スムワイ  
なかく居るが  
アアアア  
まこれこのやう  
アムワイ

已然まめ スカマ  
今まま  
てこの家ア  
アア

段四行良

將然ふらじ フウ  
たいさう雲か出  
来たぢヤア  
フウ

連用ふるろ  
まろから  
雨ふるま  
今日

終止ふるろ フルロ  
フルワイ  
後あ  
二度ハ  
ひとい  
このやう  
フルワイ

已然ふれ フカマ  
夜の  
アア

段一行加

將然きむ キヤウ  
秋風がたろくゆる  
しくなるぢヤア  
ウ

終止きむ キルマス  
キルワイ  
衣服が出来た  
アア  
アア  
アア

已然きれ キタマ  
アア  
アア

段一行奈

將然ひむ ヤウ  
先生の  
アア  
アア

終止ひむ ニルワイ  
ニルワイ  
アア  
アア

已然ひれ ニタマ  
アア  
アア

段一行波

將然ひむ ヤウ  
天の  
アア  
アア

終止ひむ ヒルワイ  
ヒルワイ  
アア  
アア

已然ひれ ヒタガマ  
アア  
アア



段一行麻

將然 (み) び  
その書もみくこい書物ヂヤ  
今日の見らるぬ明日の(3)ヤウ  
連用 (み) わきさらひる

終止 (み) び  
今日ひまぢヤホよつこ  
書をミマス  
重此書いれりろい書マ  
からこそこのやうふイルワイ

已然 (み) び  
今日こそあくす書物  
ミタガマア

段一行也

將然 (み) び  
弓を射たいのチヤガのて  
かーとたふぬひまを見  
①ヤウ  
連用 (み) とほま

終止 (み) び  
下手でんあるが尺貳の的  
なるイルマス  
重選着小なればかひ鳥  
ルこそこのやうふイルワイ

已然 (み) び  
尺貳の的ふあまをこと  
やうくイタガマア

段一行和

將然 (み) び  
世話小なるのハ至つて氣の  
どくヂヤガまうこたふいのぬ  
まこし(4)ヤウ  
連用 (み) つく  
あの人へつとめをさすゆゆ  
と下ゆい氣をりんさるや  
あつきマス

終止 (み) び  
御家の奉公めをこた  
いれこそこのやうふイル  
ワイ

已然 (み) び  
よく奉公をせしむこと十年  
なまなりも牛タガマア

段二中行加

將然 (み) び オ(4)ヤウ  
最早夜うあけ(4)チヤ  
④キヤウ  
連用 (み) いづる  
夜うあけ(4)ことゆゆ  
ワイとる人の人オ(4)  
いでマス

終止 (み) び  
夜うあをたおもオキ  
マス

已然 (み) び  
用事うあせばら  
早くオキタガマア

段二中行多

將然 (み) び オ(4)マウ  
柿うたし(4)らんらん  
来たチヤ探らそお  
いたらオ(4)ヤウ  
連用 (み) つめる  
落(4)すこととあつたあ  
いりみチヤ(4)らんらん  
木の葉(4)すつりマス

終止 (み) び  
風(4)ふ(4)らんらん柿(4)  
オチマス

已然 (み) び  
昨夜の天風(4)つ(4)  
ま(4)を(4)今(4)朝(4)柿(4)  
た(4)る(4)オ(4)チ(4)タ(4)ガ(4)マ(4)ア

段二中行波

將然 (み) び コ(4)ヤウ  
子供(4)あ(4)そ(4)ふ(4)な(4)が(4)  
な(4)ら(4)ら(4)さ(4)た(4)ゆ(4)く  
コ(4)ビ(4)マ(4)ス  
連用 (み) ひかむ  
親(4)の(4)あ(4)い(4)子(4)の(4)あ(4)い(4)  
り(4)の(4)チ(4)ヤ(4)時(4)た(4)ら(4)い(4)じ  
て(4)コ(4)ビ(4)カ(4)る(4)オ(4)チ(4)マ(4)ス

終止 (み) び  
あ(4)り(4)糸(4)の(4)あ(4)い(4)人(4)を(4)  
コ(4)ビ(4)マ(4)ス

已然 (み) び  
あ(4)ま(4)た(4)の(4)あ(4)い(4)人(4)を(4)  
た(4)ら(4)い(4)れ(4)る(4)あ(4)い(4)  
オ(4)チ(4)マ(4)ス



段二中行麻

將然らら(み)ウラヤウ  
かうあぐくたおまか  
いん居こりきたためく  
ウラヤウ

終止らら(む)ウラマヌ  
ららむふらとりのせも  
こころいウラマヌ

連用らら(み)ねりふ  
夫の心が薄情チヤと  
みえて女房が毎日タタ  
ウラヤウひマス

終止らら(れ)ウラマヌ  
あふふが不實ゆふ  
こころいこまこころ  
かうふウラミルワイ

段二中行也

將然(か)ウウ  
このやう物心配し  
たるら顔かこころも  
オのヤウ

終止(か)ウイマス  
年がとるのいとも  
かういなるオイマス

連用(か)かままる  
つよい男であつた  
年がとる腰三重  
オのヤウ

終止(か)ウイマス  
年がとるのいとも  
かういなるオイマス

段二中行良

將然(か)ウウ  
さむい風がくくも  
二階からオのヤウ

終止(か)オリマス  
只今二階の御用が  
まこと次第をまこオ  
リマス

連用(か)かままる  
つよい男であつた  
年がとる腰三重  
オのヤウ

終止(か)オリマス  
二階の萬事不自由  
チヤとみえまわれ  
あのやうふとまこ  
オリルワイ

段二下行阿

將然(え)ウウ  
今年ハ商法をよく  
利をとりたさんふ利  
をウヤウ

終止(え)エマス  
商法がよのうら利を  
エマス

連用(え)えむ  
商法をよくするゆふ  
今年ハ正月から利  
をウヤウ

終止(え)エマス  
商法がよのうら利を  
エマス

段二下行加

將然(け)ウウ  
今銀でいたたかき  
をい品物をうらウ  
ヤウ

終止(け)ウケマス  
品物チヤからア  
マス

連用(け)ウウ  
今銀でいたたかき  
をい品物をうらウ  
ヤウ

終止(け)ウケマス  
品物チヤからア  
マス

段二下行佐

將然(せ)ウウ  
代料でうらひられ  
ウ品物チヤよ  
りウ

終止(せ)ヤセマス  
夏ふらふのうらりの  
くせまヤセマス

連用(せ)ウウ  
代料でうらひられ  
ウ品物チヤよ  
りウ

終止(せ)ヤセマス  
夏ふらふのうらりの  
くせまヤセマス

連用(せ)かままる  
つよい男であつた  
年がとる腰三重  
オのヤウ

終止(せ)ヤセマス  
夏ふらふのうらりの  
くせまヤセマス

連用(せ)ウウ  
代料でうらひられ  
ウ品物チヤよ  
りウ

終止(せ)ヤセマス  
夏ふらふのうらりの  
くせまヤセマス



段二下行多

將然(とて)ひ ス②ヤウ  
このまじり物へうらり  
とあじも買人があつた  
くらス②ヤウ

終止(を)つ ステマス  
きこたのいりのチヤ  
からステマス

連休(を)③ スルワイ  
ゆらぬりのチヤか  
こまこのやうふステ  
ルワイ

已然(を)れ ステマス  
きたないのチヤと  
思つたことさるふ  
とステマカマア

段二下行奈

將然(を)ひ ①ヤウ  
大さうくつひをまじ  
たさうくつひヤウ

終止(ぬ) ネマス  
夜が更るくらネマス

連休(ぬ)② ネルワイ  
酒が更るれと見え  
ておののやうふ  
ネルワイ

已然(ぬ)① ネカマ  
おののやうふと  
昨夜のやうふカマ

段二中行波

將然(を)ひ ソ②ヤウ  
こまをハ進物がよく  
ないくら今品をそ  
②ヤウ

終止(を)② ソヘマス  
品がそくをいり又  
一品ソヘマス

連休(を)③ ソルワイ  
品物がそくかいら  
これのやうふソ  
ルワイ

已然(を)れ ソカマ  
品物が不足チヤから  
こまのやうふ物  
ルソヘカマア

段二下行麻

將然(を)め ホ②ヤウ  
此度の狂言はうら  
来た狂言チヤ世間  
ホ②ヤウ

終止(ほ)む ホメマス  
狂言がわりのい  
らホメマス

連休(ほ)む② ホルワイ  
狂言がわりのい  
誰もなをうら  
あそあのやうふホ  
ルワイ

已然(ほ)ぬ ホカマ  
見ら狂言のい  
こと大さうふホ  
カマア

段二下行也

將然(を)ひ キ④ヤウ  
たいさうふ雪ふる  
たの春まるとりキ  
④ヤウ

終止(き)む キエマス  
あつたのうら雪が  
キエマス

連休(き)む③ キエルワイ  
春の雪はあつた  
らなわれあつた  
ホキエルワイ

已然(き)ぬ① キエカマ  
春の雪はあつた  
高山のたれた  
キエカマア

段二下行良

將然(を)れ カ②ヤウ  
どらどらおの  
があつたうら  
かつたうらカ②ヤウ

終止(か)③ カレマス  
久しふかちうら草  
ガカレマス

連休(か)② カルワイ  
霜さうらうら  
ちのこれのやうふ  
カルワイ

已然(か)ぬ① カレカマ  
霜さうらうら  
草も霜さうら  
ことをわかち  
カレカマア











活き用

連用かな (1) おもふ  
情ふせまれば涙がこぼ  
れてかな (2) おもひ  
マス

終止かな (3) カナシヤ  
情ふせまればカナシ  
イザヤ

連体かな (4) カナシヤ  
情ふせまればこれの  
かなカナシイワイ

已然かな (5) カナシヤ  
情ふせまればこそ  
わがいのらうカナ  
シイガマア

形状言くーき活用の詞のあつゝ本書活語の條下小ク

シキシクシシキとあつゝたつゝ省畧せよ小クシキケレ

シクシシキシケレとつゝごさなるもどもさすてあまうりこ

とあげくならまてつらむけまひとらつとあか心得

てえんぐー

○この書本書活語の條下ふあるせる活用をたやま

さとしむとてかく圖ふあらませりこれをさうくあき

らぬまのち別記をえんぐー別記をよくんあき

らむる時の詞コトバの活用辭テニラハの運用ともふあきらかふ

あつゝあつゝ



詩集

明治十七年十月一日  
翻刻御届  
明治十七年十月  
翻刻出版



明治十七年十月一日  
翻刻御届  
明治十七年十月  
翻刻出版

東京府平民

翻刻人

本間喜知

日本橋區馬喰町四丁目拾七番地

日本橋區横山町貳丁目

内田彌兵衛

全區青物町

内田芳兵衛

全區大傳馬町二丁目

田中和助

發兌



